煙霞日記

上

特別
へ10
4595
1

門 へ 10
4595
1

門 ル 4
號 1020
巻 1

煙霞日記

われもやくさり滅のすがたあらはし佛菩薩再生し
ゝるも條一ねじやまひしの疾の位といふとふり
煙霞ゝいひの石を泉石ゝふけやまひ者乃時も
なるゝりゝなるゝ花ねぶのたりいふ更ねこ
ゝ者ゝ者ゝ山ゝはれねぶやくむつくゝろもゝぬ
例のゝゝあやゝい忍然ゝきゝて時ゝかみゝ月乃
朔日家といゝゝ家ふみゝゝ月乃近江のゝゝゝ
ゝゝ

かゝひゝ利ゝ家の鈴ゝの家のむもちゝゝわゝ條て

くへらむふるくいてれいたれ
ていとまくれ〳〵田つくりあるる海のしあ〳〵いとうるき
相州のまやる茶色よいとして

とつく〳〵稲葉ヶ浦の東えれ〳〵海原ちらし杯の
ひるあら波の花をすきあ林はとふるいれいる田山当
彼方いとちらしをあ方いる田ふのあとかをとく
人のあらをつかるうあまのいむらい窪田よあるい〳〵
あけ田とい〳〵る所ありしをとる田の白よりあるとあ
りの浦の鷗の声の如く満〳〵と吹〳〵しを必弗利とい〳〵
の花しをて下野国田山をうつせ〳〵とやぶり二里

よて人保田宿へいたり世法ねはとすきを世の杯原
いとなる〳〵城色杯をみ〳〵をくあ杯のをを
重加藤の豊人野中鷹匠東蒼竜蟠高勢崇〳〵仁歌
聲人鳥有遺臭万年銭掛杯しつくれるいやく苔ふか
て人ふいさ一株の杯木の注連縄ををれり稲荷原色と
ふ〳〵ものかをいあるのををするわとふをとれ
いすき〳〵八月十四日の西風やたれえやうふきのい色
の住いるかくなり〳〵色根いあわきをんをるをまる
地よりあるをとりすをやらを色根のをふるいさかの
宿をうちてをとり花濃のいているあいをいらの中を

すみうせたるといふをうしれとくわ山（いはつくら）
金根ふきこのかとするこれなるまれなるあり
はなて人保田より一里ばかりあるの地より右へ入て
亀山いんきょ寺人地ともゆくにあるときこと
こかとこ一ふさまてこそあるあ世一ふくく地を
すきて山乃ま人田畑川とらふ川をわるこい橋東川
のとしとふ田畑村とふ上ふてこの地のかりかる家屋
いふこまて彩田より一里とい〜〜わ一
杖の地乃いとぬ。なりり和町八千町みの
稲穂一人山とこえ川をわるこい関川のかとふ

らくていさ〜の坂をのれいやそ亀山乃宿心田畑村より
一里ふいちう一そこの宿乃石林共とふいてそ乃
家とやうぬこふわう蜆ある見孝ふゆうりあ家かれ
いかりそなう一ねもろそかくとふ今一えい水沢
のお宗のこをあう一ますこいい水沢その石い紫内ちく
そりなるのかわれとあ宗あるそうの紫内いをかく
宗る人すふ一まつきこ一みんこそこう一こう
人こふせてこそる牛てふれも紫内いそ文とふよ
あう一ふくきてすうゆうりの家と水沢村とゆうりあ
ものれいそもねきそんこそふとやうきこうふあ人

にうちまてこいまい川なとうしーとふ入しりめ文そ
の人とらんいその人まをうちてそい書のことく
あきあころ水沢の村長の息ひかこととまり居ま
れとちるへきんとふとそいいとちこいーきー
ちこひをのくかの文つとめてちやくすこの二條
殿この宿とかりく関とやそりのふといく門いとふ
きをふいてみるいもかこそうる神きかいせて行通
行ありこ九月二日ー将軍宣下のありーまりて
関東とたりめるけ西路なりと花
二日人をーーこの人をとるかいかのくのろ若林武

をいく宿の中をこいーゆきて九のとりー坂をとれい
佐世村とふ村いとうみくー地蔵山冠嶽かのいとろ
くみくくうちくとなるあいとーすてゆきて川と
やとりこの佐世村のとうをとりて中の山とふ坂よりう
山路とやゆきて岩森村とふとりて川湯村とふを九よ
ん地蔵をすきて沢蟹川とふ川の橋をわたることを
みて川とふいこの川上の小岐須村とふ村より①ー
個とて鮎をうちたて大神ー調をする例とふ
そい千奥ーて調進するそをとのふとて川原
よりーたは鳥かとのうりもしるとなきをすき

ことふるしく網とすまるほとは領主もこの川まて
網うつことはかたくて網主の旅たしめて網をいれらるよそ
伊舟(イフナ)村といふまて志いらくいふこと也 わさふのあまし
ろくそあしるあり
かたきりの色といふ所家しられんもふかくそむる
もみちぶに此村をいひあはせて漢耕まいつれは石大神のみ
さむらひの山をはる見くそあしより小社(コヤシロ)村といふ村のうさ
いろをすきて川ぞとすきて小岐須村といふまいらるところ信
亀山より二里ばかりといふこの村乃村長の家はふの栗田若
なる人の志る人おもてし あれはその家をとふらふよ栗なほ

とふらふそ家のまゝすゝまゝ村おあかしくる栗庵ゟ
ものくくん茶をくみていさせもならし ふは石林茂り
行厨の用意ありやゝまのせられし かはてふてそといさ
つ石大神筐風岩の栗田若のことともときもてなしぬ
やすくうれしくやそて螺といふきならしたちまち村人
一人いてきとりここは人をよふならまたみえそ村中乃
あるかひしその人をひきてなせていざゆく川の大なり
これ川御韓川の川とまうしあみくはきまゝいるこそ
く此村よりあすなり川上まあり そあの淵といふかまて
そこより上ハ鮎ものほらずとふこの川の末は思川ま

かゝりてそこの川をつたひてもうしの岸をこゆるとて
のわれい海つゝうしろのうしろにみゆるくゝ山ふかく
かゝるまゝ坂路ひとゝろくゝなるあゝ山のわきをいとさま
ゝしらくゝ世町をすぎて山路をすぎて石大神の清前
よりくゝこいぬるまゝ八ちるまゝにていとくゝたかき
いろの嵩くゝあさゝ山のこゝ苔むうゝとろくゝ
みうしなるあるいはあるのあるしなるわいもるあるのあるしなる
いいろぬるあしとふいうゝきゝてあの石い
刈式みたる石神社鈴鹿郡の神ことなり人うも無乞
をすゝいうあゝ文あゝ一あるまゝそこあの石の項まゝくく

幣をようふるあの幣の竹とふか鞭たりのわわさきさる
みゆれとこ人ゝまゝくうきあゝりゝ竹ゝとあゝ人のをあこ人
きふ石のゝとちわゝいやらきたなりうゝろのゝまりのわれい
項ゝいゝらるゝいゝとうゝこゝ毛ゝ八のわゝ文ゝあの石も刈ゝの
川のわゝりゝゝ北むきゝるたゝ世なゝり石のゝとふゝ文
かゝりもふくゝあゝ八きゝるあゝふちゝいゝさゝ石ゝうつたゝく
つみゝゝんやゝあゝいゝ刈石大神のみゝゝゝ刈れわち
なゝ石のゝゝゝゝ石のゝむゝゝゝおゝゝゝゝこゝ石大神の
ゝとうみゝふゝとゝふをきゝて

千年ふる石の大神一汁子たちもとゝふるゝはのゝさゝ

まるんの岩のさま、まことに奇すべしてたちまちみえ
ハ
国とるめさて、空を隔てさもそれかはゆこのみまへを行ハよ
そいてゆくこゝろもとの山のおもいハいしら文あやうて
こハやゝ山ふきくるやめんん鈴の文のごとくうまきあり
あるいハいしらゆくゆくとあやふきを一丁あま
りのわれいたの中一尺ばかりもあり下一山のそばをすゝ
さくの谷ハ水をおく枝わかれの文の谷ハまたまあるゝ谷川の
なるれい眼下にみて富士ハ一帯よりかるゝ川のさま
奇なるを見わかきて仏ごとくいみるとハ
の山さきすゝくわかふやゝ見のたこひときと一見ふみ

さゝ〳〵かい手石の谷よりちぬ一ちりもあやふきを
くりとおかふわれと炭しるひまるを沼のこゝもいかりもいきて
いとやすきを文を谷のうるゝとゝるとゝるとゝるあやふ一ものと
をくるもをもるやもいと高ものあるいてうるゝ〳〵なんふきまふ
はてハさくりよりかもてきるうるの中とかてとてこう
ちまん一うれてめれしを石大神のかたより二十丁ばかり
まて保風山ちうゝこ六尺ばかりの石ふいとやきをあり
て落ものゝくりなるを一丁ばかりとかりて川の畳す
いかり川中のふれうゝと乱あるいハ岩をうゝをとりとて
一丁ばかり川中をすくれい一すちへちよ横すかれいつ

る谷川あり其谷あひに屏風岩とて石のたかさ数千丈なる
いはほの岩はさながら屏風のごとく一面にわだかまりたるのごとし
大きなる岩はいまだかくつきたり其中よりいとはいさゝかきれ
ながれ一すぢおちてしりいてそのきまきこしいたんたかし
ちかき上なる木立はいまだかくしろくしてひるよりきたりまろん
まづこの所のさま唐風の画にいふつまのごとしすつはいひかりき
さなりつのさまあるなるをひていかなる奇険を清むるになすくるあまり
やらなへうんがら桔梗あるきは大寺のあの須やへかみそろれ
京をとあそすこて七日とてまとまり舟にしてふいらへあるにこそ
かゝせもよふて人かりせいせ七日はきてわき一里のちうちに十まりは

しるがゆへにこそあしへちまめいかならずしそへきあそりしやまき
奇境をこゝろむものゝたせりとて奇岩などわかくみしるといすき
つゐるとしわをみる也
風をりおかならぬあり時月りましそろくへたる谷の
岩かけ
をどるも粉すこゝやうなかんも人の時に人かなる
い——
屏風岩とてめずらしいこの中にうきよの塵をも
またしもせし——
わるらし山のおきみちのとれかぬるもうつし——かの波の

ちらしへ

おのつからきのめあるをそなきそり嵩も波もしらき
今川ときてもみ屋をうの村長の家まそりくこうろ
村を出るもあるさい一丁ばかりの西のさとり石炭をみて水を
あうなる沖村おりまいけ村の氏神とへ武り
みくなる小浜大神社（給鹿郡）とあらしの湯川とふ川原をす
るいすふいちさきる小村のわりそすあ川原の川
とたり山岐須より八丁とふる山本村とふるさとり
椿神社ちつこ式みくなる椿神社ちつ南の一宮
ちふ一のそとふいつちゆ名しちつふるまる

しりてものほうすもこそふ人とりあるきまるとなり
きりなりうみ家を一宮とは村はまりまるこそ河曲郡
ある都波伎神社とは一宮あるこの所をふるくいはる
まそのそちきふ分ようとへつあるそのの中心とは
一宮記も河曲郡あるわるれいをあいしたしあるる世の
神ないかりくる神とつあるこいそそまと毎年家のやうの
みあれいた寄子をやしかひいも人をたあしらけこをなみいねと
してるまきおこしするとのわわしいふくむいきそ
もそおんふいきこをなりまれと一宮としこをいふもり
の神社あれいこのほまそもこあるいと在たらく山をつきなる

社代のさまたいれのかたいとものふくわくあさうの事
うしくさことのかうあるふう

神ふかつたきのみやのみしあ滝八幡代をのそく
ふくさあんかく保村とふをすくれいすこしはさうくてあ
つこうくさあこさより米女村の三年ハとふみのうくてん
のさうしををれて神の清酒のみすくをすきてすこしき
て又も神の清社のかたうをすくれいむひの山の根よりす
ち常ひきさくさんやくあるの品をいさとふ動よ流
いいくこ二里たりもつまさとと鮫ふいむくこの山より絹多
て田畑をあらくこうあつこみいきつまたるあるう人こいそ乃

拾ありさう山こ駒ケ嶽とふいとうたうはね
あつてみいあのふうきあ
山のこくあくるい雲村をそ保きうくつみのあ
心うすこゆきていうき川あれとあいかくこいすかうち
三宝川ゑて三宝ゑ治郎の郷さのあるうむひのきいい近郷
郷くくいい三年車いい治郎しとうふ米村より二十丁いう
ゑて山坊村（ヤマノボウ）とふいたるこみ村水沢村乃枝むうさ
この村のおくはうの名うきあ集をこいさと人ハ村茶谷と
いて村すうちくくハ口ふ集村へうはとふ傍ふを
領主藤郎殿ゑりさそうれうやいまあ集ふいます

かはくいさゝか色さし そやきてたゞ仏と申すは色ともに
まりくしきこそめでし 紅葉谷とふもしるし なれば境のこと
きよあかりて下は谷めきたるかその中こそはいすくなくお
かしき楓たりけるかさいりに 一身般若河間の亭をたてゝみ
ちかしく論ありて領主の備後行かしかたてる碑もあり
碑文の題名は領主よりちりきしてわ枝をきこえを禁しられ
なからし其半ちとほめたるし 凡二丁ありもおなしさまよ
紅葉はおくふかしくて木の下まどりさゝやかなる谷川の
ほとりをもしつらえて文行館をひらき茶をまてんをな
しましむまくく所のさまときくみるに紅葉の千本きりおきには

まもなくいまくなるへきあたりかねて地のさまいさゝかりの雑色
にあらんして演あたし山まあらず文川もかう文斎されは総乃
光宗もあし文もとへは御嶽の花のたくひまちてみちすし
さへてい所のさまかとぬくよ似たりさいへとの岩なる所
ましもぬれかゝ行勢の山乃ほまれいほまきかゝへし
わかくれてみいそもてもみさまれいかへとさはくれ
かりけり
かしあかりき冠をとゝもすありて彼の御衣かみもきみち
うちくたるあかりいみそこも冠かさとねとふ山のやうてふをそれ
いこからうえむの寄ともかうきかへるのもとをさかいそきまむうらひてあ

たりきりやあんにふるくおくにあるとかみゆ
紫内若とこいとてはよりておくのこゝやまこゝもきこ
ふこの所のおもふいとやくいとそのかときてふとゆう
りしくこゝしやかゝらのあいくてふるのもちゝと
おもはきりねつ山のはやすりひてみもきて
ん泉ゝくて三年杯とふれ村をすきる所村すれい
おもふ谷より九丁とふすや見えなきこのねのさかう
の家もやとるい茶内よりつきなる人の家まて来ゝとめかう
大きりをよりふきの茶亭つき山ふとありてふよく
主の老翁いてていとあやうるまてあつ、ろひのもう

かよあるふいふる俗地まて人まとれい人かつうきゝ
あん人俗地の人いやうすむきさふうきとゝろいあるし
ほこるう老られいおもふ谷のこしみゝくわめないいとはあ
きうかり酒飯のまてなし所にあいせていふりふうく
生奥を洞いてゝり飯後は清茶いせるいてふふく
く勝者あまねき時好をそーふくおろくよたゝ
お沢のおもふのもしもうすりほふきふ見りかきん
けりとゝきてあるーよあるきれとあんかるやとりのうて
おりくゝんやすくて男会人のあつきまてかに風流の会
ふうふいぬるおわーゝうて湯あみせてすむれい湯はなる

まゝにふす為ありまて いとあやしきまてあつくたへかたき
それハそのしふかしくて萩らくをのこまそめすにハさめ
中まゝ目をさしいきくあかめんうれ板をやきれたりゆ
させたまへとて板のまわきをそうへたりこハその板をふみしめて
いるに岩たゝくとそ出しかりしかハうくいあつかりしと煙ふき
いてすまゝ侍をうしそれともなにもなしくてえやといもあへ
又荷葉いとをさるまてあしまいこよなくたりへるとなのうち
まてをうしとおまふのみきれし病のまいとあやしく
かこきまよりかれハこのあさくうあるいふあふかたりいてまく
枕をしやすくしつていとうれしかりし

三日程くめまあたなまゝ毎のねさめの後ゆりいもねまひきそいと
くるしきれハ何もすゝまゝ又まかしおきいてたるまけふハ毎て
ふせいまそとまりゐてあるしのいてみうくあますものを
いたびの辞しなれとみまいゆるさ又きらくてしきそふせれ
いきしいかゞ気しまそわるくりまわりせんとていゝふへよる乗馬
めきまゝかゝみあやしきさらさしぬのりてみれハ嵐盈闔浪と
まゐしりあるりていとやつれさりさてその村の女神ハ式
みたり足見田神社三重郡もそ今ハ足見田大明神となりす
よしいへいまうしてまちしれしお六丁みさきのかハ毎まそ
えまうして又かくて菰野の湯山をへさして村をとてたちかれ、

四日市のうしろにみえてゆつくりとみゆるのは伊勢
鈴鹿のうらうまで羊腸まてふとふるさとうまれ
家さまてふとやうり帆のん舟をゑまくふみなりと
かうろくをゑこいつり舟をうれい沖(ゴザンショガ)所嶽ちらくみて
いとうとうまて深時とふ山のうらうと小水沢とまつて深なる
ようてかくふとそ時をすくれいむいのうさみたらーいて
よきーをりかゑゑれてうとふあさやうーうとりハ在家をみ
ゆとのしてふとうりたれいみ更ゑ荒地村とふとうまて地蔵
こいつまうまつみーー物ゑ境なるとゑ山の根よりうくみゆ
うゑきーーうとて二里ちりもつきたるーー

さいうりよつてくつみよりの人のとうのまいえーい
ちめーーうの小ちをちさちうーーうちちふーーうハとみさ
きいつれんでうふとそ山ゑ地蔵よいつきふくちう山
まる山ゑちふ山みゆふゑつて山い杉のゑゑるあやうき
ちちふゑふかうちくちまうれて湯山のうとり地蔵
みゆりきて風いとまむくゑ巣巣のちーーうふくさうん
行そくうのうゑき暖世のうきゑりー

れうとり志ゑめきてわうたうゑのくゑる地蔵巣ハ
かつうーー岩川の橋をちうとりて山ゑうとふ山ゑの和巣
いとうくゑゑうとーーゑ川の方巣下ようーてうれ行

深山幽谷のさまいとゝかしこゝ山川の
をとをかりて坂をのぼりて八つのゆのもと
ゆれば湯もやゝ〳〵えをあらはしあるいはをるれふと
山をつたひまたゝくらゝ石をはしりゆのいと
ゆらゆらとわかるゝふもの家やとのあるとも
水はゆりかへりたる二軒ばかりふかけまたをる
あるゆ陽とくれいはつたるもふみつゝ風流の
いさゝ眼中にありていのいらぬなかあしらあるもの
まやふみゆかゝるもの〳〵ていさゝかなるもれ次と
いやゝとそのうつゝふかゝ温泉まとい年す

湯無之家のやそてかりまて三ツまきり花と八ゝ
張人すくられいふるついさゝてたいとつの陽まそ
えりとふ方一間あすもあ陽みかり留湯ふ吉の
價ゆ七百文いうみとふ吉の價ゆ百文ゆうあ湯と
ゆゆ一ふ湯のつまいま湯とて幕をとりたこ別
のゝもゝ人をふのまそ和の中とあるもをりふあ
いてをゝくみゆ人をいふ温泉の拡記と名りたる額
ゝりれいゝみてみるゝかりまゆ名十ゆ温
泉ゝ角ゝ名ゝ完なり八年ゝりてゝきゝ八ゝ流黄
の雪ゝふくゆゝいつゝまゝてゝあるゝをゝゝゝ次と

たくさん湯あみして宿をとりあるのさま
ん心とそ[illegible]事問さあいさつをして大滝たち
さへえまち業師をみちびき祈とあいせていきさと
そこをりすてゆく[illegible]の御祓神さひさを毋ふたす
二丁ばかりしいたとのきて川のほとりまつこの宿より
いくのまくの間を新郷をえとり出ていきさう
さみゆきあの山さ地獄ふたるのみゆき地獄やまのさ
ありたんやこまみゆれい高[illegible]とい貝殻の色と
ふ[illegible]あほとりおれ出ふるあり川ふたるあり人の
おもしさそうこそくさみゆきいとそさそとふ事ふ川中

まあ人ふをとんうあふれいんのうをうひとをたん
あほう方二間余もありていとあつ[illegible]き石ふ[illegible]あつい
うちひあれいそふあくみくらの火滝まて燈ふさうみ其
温泉獄ハ湯のうとり高たり山川のおといとさまみら
御山の[illegible]ふと人のいとも[illegible]あとりの山とうあちいい
ら更あかて[illegible]なるおとそ[illegible]りそそ[illegible]ふとあてめをまち
ハ[illegible]もうまうふをいて[illegible]ふ里をへそたらん
うこと[illegible]渓清白石出天寒紅葉稀とふうらうまをり
うう[illegible]ん[illegible]
もとふ[illegible]きよハちら[illegible]奥のあり
[illegible]するうまの山[illegible]

こもりくハ
火のこゝき山の柴を薪として其の湯たくら
ともわすれ
村柴よりこそみな湯の山をも湯まみへハわかせ
さらなむ
志のひかねかしなみたりきあらし色よいて此の山の
和哥御
柏柏の根まりて其の山こなまてうごき本のも
みち柴もみ返を命りまてみりくすこし坂とより二三
丁ほのうちの山よの流れハ湯壷あり此忿くりくきめぐるなる

まのあたりその中に石の祠ありてその中に木のふたあり
そのふたをとりてまをさしいれみれハ一尺あまりも下に湯
わきいでぬる湯をくりのあとくかきとよりそひにて湯殿
のとなりまてとりてその流ひまりかの角なる丸き穴にハわ
つるしれり此湯壷のわとりよ出柏といふ柏いとたかくた
てる木立ものありなるハむかし此温泉みつけしなるひとの
たてへのとありしうゑたるかくし生長せしとふ此柏の木ハ
古みちらしよくして茂まりみなかより入ゝまうちいれて
多度山のあたりまてもえたにたゆしみねとわたりハるゝより
くまりつゝ時なりいてゝ旅衣の袖もしほるあはれとみゆらし

まハいさゝかさはりありてあやしくてこゝ山のなかにいりまよふも
あらぬ所のさまハ此山のおくにひろくてよふハ荒野乃
秋なとふとゝや
うきこゝろし山ハあくまてむら雲のもとにそれたゝ伊勢
のうみつゝし
月も日もあかしとふたゝみ山のかたちしあさなゆ
ふかくしもこよりふかとのみちし谷川あるハ又ひとつの流
まて大石のあるあれとハ輪ともにそのハまとかり井戸とて
おもしろきあとりありとあまり又もとひのそのふもとに
かきねなとふるありてそのあたりにもありとふるの脈ハ

たかねとそのかたわらなる不動堂ハ人のすみかありそのあたりまても
ゆかまほしくまてまて日くれなんとちかきなれハえゆかす又もかしく宿
まゐりぬ此山の和気ハみなあたりの人のほとりにふとふるまて
水沢の和気ハ雁風岩の奇宗なとあハせて人の賞ずる風
宗あるかたちハ雁風岩と一としこの山の和気なと二とし
水沢を三とやかさらめきんよのいかなるよく料すへしかくて
夕けするもゆかるよ茶の味ひハ山水のきよきゆゑなるへしこれもこの
あたりまて製衣せし茶あきハあらし茶もいとよく
よき茶なりとれするところの家の様より三味線の声
又ハ軍書講する声のゆかハさるあたりまてハいと

仙つきのやうなる山々幽邃の地より出でたるなり
うたわ〻さるふ世のひゝめ〻ふるれと
わうこくもつうやうやうに出るをうるとそは又ふるくなる
らむうれとゆまふること一人も宿りたりとふ又い
いとふきてしれとかゝはさしとふよかるこのあれい
ゐる史又ふきとつまあ〻しさてこの山家やう
やう古形あるもうまて皆やうを業とす蝦蟇ハ孤
地の宿ふいやれいたちまちふとふ湯女とふまハ人
兵史又ふうり初りとふこハ湯女といふ男とい一京
をうしもとすこのとふ迎ふまハ大川原村とふ

いつる街道かれい岡人のゆきゝもありてそこに宿る
ふるのあい京をこゝより四里ちかあり日出人三里
ありとは又のまうたけるのかれハ此枝の山迎ひ湖を
うしめ指所の城もうこてとわくい忘ゝのゆる四まくも
人ゆとふふ〻て世のかれ〻ハ〻ふる地ふまハそのうま
うけをそめとろ〻山あみせまるて二三日帰
せまくわ〻もとすも湯ハ京ふ〻〻ハ和泉みん
のうしかれハゆうまいそうまてゆるハもたんとすうう
涙ふりしてかりふる温泉をうとむ一奇とふまい
又一えふまてたちうもそれ〻ハ再〻〻〻〻

ゆゑハ谷川のなりきをそうふて種の者ふとハりまぬ史
して枕のふくるもしらさく史とふこと有しらたハ
いとんしつるる旅の苫のさまふるる佛のをのこふとくふて
臭新の炊るしわきハいまと眠もとるまひとり佛
燈もむしてんをすますほと庵の一切きこゆハ
島興あり

きをしふまとふふ待この山あとぬわもひるねを
やちくこん

谷川ま人てえをふるさをしふふうきの美をもす
はせしをや

谷川のなりきをやうて枕すてきく庵の者もよふハ
ふりうあ一切いいちちく笑たるすくとふくきくま
うちくたりしてふきさく切うるくゆゆふこと山乃
同まきしふるたりふきり行いくこ者もわ史ほ
こ乃ふりは猟まやあんわもひうえ史洗泡をうてりこ
庵をうつなまあ史たる毎をむれようつりとい庵
まふるあるをりあしくあふんうやとふまね
ふるまくみもしれも

谷川のるくときしてまの者をひりかハふ乃の
むみ川

風はやく吹き行雲ハ墨をそゝくかぬ毎のぬる
み山の神　よるの衾よく／＼わきてふしたれどもさむから
さむくしてよすから　稀なるあさなり
四日あさてみつかの朝／＼やまハかのくのまへまで登い
とよく雲まハ一門の雲なくかきわたりてぬく／＼あらはるとこく
それよりハみやうしきいとんまれして足まさのかゝひやく
かぶれハ厨まいりて竈のうへにあくみつゝ火によあたりしハ
まいふやしまへいさそふ其へつね　ともしなんとミゆるま御雪
それよりそれいつれよりかふりぬるに　ハあきみたまへとこぶ家
のうらのとよもふよ北のさしをみれハかの御在所嶽

きのふハさもあらさりし　かいつきに雲らすくかれりけるの
山までことこし此御霊山と云ふ先こゝの山嶽かえしめとして
つきつくひくきは山よ見るとそ
もみち葉の錦よあかね山や又かねおさまりし雪乃
しろたへ　外山より富士の山ころやとへハ剣かれそれ
父そ門まいさふひ指さしをしふるをみれハ海のむかひの
山あひよりいときやうかんゆ
海山を座まみわたせる様ハふしの根をさへやかまの
見せり　能登の国ハいつまであまの釣舟
たしのほとりまてわかりきたるよくすりのまちかのあへさき

ことわるいやうにみえ谷川のうへよりあとりの山の紫
をみるよし山のゆきてもことふすえんなる色うるはゆ
れハ保ゆきえりうちうんてたをゝ枝をとゝむ

かゝすきさきまゝをきもみち葉よりやとりねなる

谷川乃橋

そこゝるいさひとらい朱てをみん和泉ふの橋よ似る
川をゝまてわたるゝよとりてきふすあ
世京とすきさの川京とすきてやゆきてゝのちまて
ありそこすり乃とゝて中荒野村とふいう湯山より
二里とふ荒世宿よりいるゝの川京まて一里川京よりて

まて一里とゝ川京よりあるとのさゝ乃ゝ間の乃
ゝ茶畑わかきハする荒世茶とふいるゆゑ名ゝ一ゝ
宿の入口ハ刈こみあゝりの領主土方の殿の陣屋乃
裏門のおりてういきゝ石ゝ一ありそのうゝすもりをを
みきハ和茶と橋の並木ありていとよくそあゝりこハこ乃
陣屋のゆゝ有る亭よりみやゝのなかう名なるしとふね
しつきみやひとゝそ並木のもりる氏神の神社まゝ
すゝとぶせゆゝるゝすゝて小林の本之みゆきて村よ入てみ
るこのゝ城下とゝるゝふゝふくたりて陣屋とゝ
いとうりそあちるゝとゝろゝのゝゝもいとあやゝくてゆゝよ

みやいなるもあり　こゝまてかるに竜をかゝんとすれと
戯まくこゝまていそふしてそ價を得せ文とのふるきに
いと以ふつひとりあふふいやすくとのうんあるといふも
よ為ようひてをう　必ずといて其あのわるのほとりに
凡よりきて福村とふをすきに川ふあり　この川に沿市
の宿ようきよち橋のうれ川の川上をそ川をわたきに
吉沢村とふむらしあるの宿より一里とふる老村とふる
いうこの村乃又字い下鴨河原とうくすーいふ老むし
ともふいいくよりぬゆ上粉汚ふとふもこのちうきに
ありとふ上下藤ーていふ泉てもあんう村名の訓い

かゝくふふるくいひつさへたゝうあれいみやみるわかくさみ
えうさきこあるあるこのむらこの村ふ三宮神社とふ神のわたーま
するまふ所よりいせてふよきかとの御社まて其乃
本立をりうふ和ふーたり
　みち紫い三宮の社乃三宮うゝ倍立うき称なかゝ
すきく新川小村とふとすくれい淡地まていとうー
この淡地ををつくてて山城村とふふるれいたもれすり
一里とふこのひゝとすまて川のつみまのわるいすふいち物子
明川心院のうへをやくゆいむひのうきに川小村とふ村
の氏神の御社ーて小山のうへまたうくこの平泉村やま

き村かとふをすきて、陣屋村とふ村こふるこい大八知村
とふ、むかて柏平下総守殿の陣屋ありて富山のう
やりふそこをまもるきい陣屋〳〵とふやりすする所
のさまもすこし所めきたり。あむとをすき川のつみな
又ものかりて十八丁とふよ柏寺村とふむかのさらな
いつこいすふいち東海道。てあさん川の橋のわたり橋と
わなるかとこの川のこ物明迦々川と書紀天武天
みくなるかいもらきて
あさん川あさくいらつみすくみんのうきまゝなり名い
かりきけり横村とふをすき小向村とふふるこい名
物焼畑て家こて畑をやく〳〵縄手村とふふ武
こなる苗代神社朝明郡。ふすて山きそるこせたす
とふ町屋川をわたり安永大福とふ村をすき茶屋
の宿ふいたるこまて柏ふり一里半て荒地宿すこあ
宿ふていみ里ありこの宿の春日大明神ふすこてあいと大社
ふて式一みる中臣神社常名郡いあ神社とふ中臣
神社を其日人明神ともすこすいゆりあきふもあるい
うとふいち〳〵中臣神社なる〳〵こてこの宿ふ酒井
左衛門殿の宿りふて関札てふものたて宿りをかりふと
せきるふまて〳〵みかれをあてこいこたひの神大礼の

御位代とふて都よりのわりなしこの宿の亭主行ち
ハわう定宿てふあるれとこ[illegible]いハうあんとおもひつて
あるよゆんハその家い幸ま尾張殿より酒井殿へのお使
者の役をつとむる人の宿りとそとりあきたるおもひの
やうなやくすみ〳〵その御使者ハ行の
きはりもあるよくこそきまぬれとふよいとおもひえふき
ことゐれい逆旅のようひいきしきらしいつこふ宿
とものもてなしする世ハたくひめつらしきことふてあつらさ
うんうこと〳〵この宿まこのかと芝居あるまて役者い
江戸の市川海老蔵まるれるまて宿の男ほとこ〳〵し

ゆくとこと更てなりす
五日りまふくおきてよりおきたるふ舟
のりてきい川こい多度神社すまうてく登老まゆん
てなり湯山より多度まゆくまハ平程とふるとうて
ゆくなとい〳〵とそハ乃あしく者きふと〳〵らハ〳〵
らく茶位まいて舟まハのりたるハ二里ちりもまきて
内母（オナイモ）とふとうまて舟をあ[illegible]こふ夜とふあり
舟まていんのんなり〳〵らとふ法ようとそくふれハ舟ゆき
さきしとてこまて堤まのほり川まそひてゆくかとまあ
南乃中須（イナミノウナカス）とふ村をすき川をむひまとりて右へ

ゆるハすなはち香取村にてより八路もひろくなりて十八
丁まて多度の宮川村といふところハ多度の入口なり
おほそ肉母よりハ一里あまり隔りしところ也御社
おしあかりしやあらむおかきなる鳥居を入すこしゆけハ
神主の家あまたありそのとなりに御饌殿あり又も鳥居
を入てゆくとのかわり石段をすこしのほりて御社
ましまし川をわたりて一目連の御社といふもあたりまして
葦石といふハゆゑありし注連縄をかけりあたりにし
ハ流めくる谷川なれはあちの御山のさまはいとふかく
しくおはしますも又ふもとのすみわたるにしき岩のたゝすまひ

木立ものふりたるさまもなにとなく紅葉もよくあ
はれなり

落たき川もみなひとつにて神さひますさま多
度の神山

とりあへぬをしりてもみち葉ハ錦のぬさとあ
し神垣の御神のきよくしてなお御ことはにふかきさらくあそ
ハ多度神社（桑名郡 名神大）と志るさせたり又一目連の御社とも
古則天目一箇神にして古語拾遺に伊勢忌部祖とみえ
なれハこそまつり座ませるもゆゑにあるへしとか
大神ハ現神にましまして人々も尊ひしかふとそ

山人乃志る所まして御社ヶ御気ハなくして於御廟
たのみんた其のゆゑにとてここにふあらハ志ら井
ます御神ニて西をいのる村より又御神の御札ふ
まのをうんまふて又の之宮さ乃まいらへハたちまちその
ところまて西ふるとてそれ札もちゆく葉ハいさ日乃まいふ
ところへいち足らして中村まてまちうされハそこまて
前ノ史西ハふるとそふらくて宮川まてありてこそハ乃
をりへ大国とふさまあのすこハ馬庭まてありてハひまある
むかをいとめて太田（シモイツシキ）まて船をまはさせおきたるし柚井（ユイ）村
とふをすき下一色村とふまうされハ伊勢（勢）と尾張の国境ま

まて今ゆきさきハすなわち尾張西大野郡なりここより
港の乃いとふり左右ハ田つまきすへてみなわかき田なり
船乃ところくまみ内ハみあかりのち風まち船まて田??
かくされハ水わかくして?ひさきと??
うちわたす千町の小田ハみちて稲葉の波と船
さも成や右田ハやくむかひさみちれと右ふかかとかし
かくむかひまみてふから乃をまわりゆきハんのうむまのまてあ
まりんのつるところちまかくて西?より一里半とふ太田
村まいりてまのなとふことハ剣川のつみまて船ハなやく
むくへわかしふりかり乃とわかり廿八まての内母まてありてそ

こゝろのうんめをてハうさ[illegible]おもふ世ゝ[illegible]一族すいこゝ[illegible]
こゝろ[illegible]あるものなり[illegible]毎ゝこゝその舟ハ二里しとふ
くて舟こうやこゝきゆけハ[illegible]のこゝ[illegible]めこゝ[illegible]わきゆる
寺みたり舟ハこゝ[illegible]こゝ[illegible]河(カワヅ)村こゝふ村のうゝ[illegible]やこ
ふるしこゝ[illegible]こゝ[illegible]石こゝわこゝれこゝ[illegible]駒地こゝふ[illegible]川
こゝ舟をハこゝるすくこゝゆこゝ[illegible]大垣のこゝ[illegible]はゝ地まこゝ高すり
一里ゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]ゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
ふこゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
のかこゝ[illegible]舟こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
せこゝ[illegible]こゝ[illegible]舟賃こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]

うゝふねこゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
ゆこゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
こゝきいこゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
中こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
つけこゝ[illegible]俗こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
の事こゝ[illegible]文事代こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
して志ぼ(シヅ)こゝふ村をこゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
こゝこゝすこゝこゝる山をこゝ[illegible]岐阜こゝ[illegible]華山こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]
みのうこゝこゝこゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]

奥とるやうにてつくる瀧いとも池ふかきもの
とらすやうとそうとは沙魚有よいたい鯉四ツ
一里とふあすくちくいさまて舟ともあるし
こいの川関所すり常谷まるふ舟あるせて一見
小倉かとふ村とすき舟村の村よりこまて沙魚より
一里ともりをこの村いを儀の浦村るよりまて浦村を
ふとそ村のあいとみやひなるよそこりこ芋を系の
色ときふしあるおりめなり
芋ふ〜和系のもも村ら村えかめおり先なり
ら山村とすき川系よりいなるこの川系と養老川系と

ふこいの火打石のいつる所じとそこの川系より火打石あるを
ひろひぬやうもとる火打いきつと一せうはの花見のはの
ともろうもあたらあれいこの養老川のこをそゆるもの
ありやこの川系をのりく十二丁まて養老寺よりたる
や尊い不動物王しこあるとりよろこ養老酒つく
を家もありこの寺ものれいみをらしこを
ゆまこゆんは湯山といひく湯治場一軒ありこの
て歩門とやしひる在とへり二丁ゆこの菊水天神とよ
うすうこのうまわりまつ三式よ多伎神社多藝郡とみ
なるあり村村つ一石階とのりく寺つるよりこ菊の

とふ泉やきらひて山路のちまたより かりそめわつるさまいとふさ
きよしこの泉は名あるところもおほくたくひ
なきよし泉と碑文もたてりかくて山門を右にかしたる
なしたのうへにかけたるのほりかとして四十とふる
名ところきく瀧のもとにいたるまてはみなたかきにさかりんや
なかりよき石あるはそのうへにのかりてまかすまほしうこそみまし
をみるにねかひの巌のうへよりおちあるもあまたはちり
たりくおちくる水のさまはきわまりなくおそろしく水煙さり
のかりて旅衣の袖もわけあへすあたりの木草ものふらく
おもふもいとおそろしきいましりきさみるはかりともなし

より吉野花見にまゐりしいつも志らくふところあ
たりなり
大御幸ありし昔の跡ありくの名たかくのる
幸きよ瀧
いさきよくたゝやしなふ幸きよ瀧は花の名のみいはれ
かはせし
水布の色はふかくゆかしくあたりのおもふそめや
ぬれ衣
この山はまうしらまぬ西もあるとゆきてわきて和歌
かりしみすら

うつせいあるなるあるをへて日もれかゝる滝の
たゞいとあらう茶屋などあり　江みゆきて　すき　八月
十四日の風あるたゞれさうとふかくて滝童子むとて一丁
たゞりも山のわりなる雲出るとのうへとてつゝ
いさゝか八下ちりみ　さまも　八　ちもし滝八前より
石さらさらして元正天皇の御宇養老と改元あり　こと
又行幸ありしこゝろふ続日本紀ふみ大伴宿祢家持
大伴宿祢東人　京のうふ百樂ありうの紀又百樂ふ多
度山あるいねこゝろいしりるふ所のさまを考れい
多度山より　つゝて山つゝきあれいむしいあり　まて

多度山といひしこゝいちしるしみるうろいれうり
うの紀に美泉とあるをおもふ菊水と美せしあか
らんとおもへ　と　新泉のうふい又田所川乃滝まれ滝の
うをを賞せしうう又合せて賞しまれるあるうそいも
かくもありらんゆえ　たゞ所ま　録保二年
ふとし　梅五寺　ふ　もあるむこせたまひ
別雲元清皇の門勅ありきとふもうこきこと　乃
泉と滝と陶ふやくふ　美泉辨
とふ書さへあるいの意ふ　たゞもしきをかふのわ
たゞ養老の石こそめてたれうくてうの一形　まく

ゆゑ〳〵つくるところいとそまつ〳〵うちいるそ八洲をみを
らすとふこい伊勢志摩尾張参河遠江飛騨信濃加賀
かりとも又文墨をもみるとふ所行を尤山加納大垣
書信とふ

わうものとしてするあるは松ちきたまり世
をわき海山温泉ふうちの山ゆりやきいつて菊のもと流
をのものこの家のまくそおれあふをあはせ〳〵たくしやく
ふいと清らかなるところき温泉まく〳〵あもるこち荒壁

はきたりてこゝを小湯泉の洞穴いとくいやすし家のお
はきとゝもいとおわきおりてゆのうちおりあれたり
わとちらきし山のたすまい谷ものいまあて物宮の遊地
はわとすきとゝろいあるもんきたるをのこそまく
のもんとりするふるゝ高り家い菊つくるこゝをこみせのく
家ゝ史やとふといいしはいるもさりさんとそはわり
祖父の時代のそとして人〳〵はつくらさるゝそをいふて
ちせるこゝとゝいわうゝ父菊をこみ〳〵ゝ変化すゆき
し時んてこゝをきゝ者〳〵らこの父はゝやく故人て
なれりとふ今きのこゝとゝ〳〵わう家のこゝをちり和るも

為の人めきて侍るべしいふつゝきてわわゆゑ湯のこと
よつきて湯くのものゝ[illegible]すなとかきつくきたり乃
こゝもとに家雪月花いとものしとふ吉のみワた
しの畑の色吉英赤れ色よみくゝ又しとゝいふ吉英い遠
茱花ゐん赤いかゝとこいふあたり蓮華寺とわかく
四つゝれいしとふ又十〇たりも菁ゐりん大神の
御社のわたりは石階を修理乃をり十二の骨龕を
ほりいせることありしたりとわそせくゝのまうあ
わきたりしら何人の墓ともしらねとふ家つとりす
きものめせとそゝあるりて制衣せるものをいこせり

中ゝ解文をすたるもあり乃その解文の中ゝとふみ
清人程示城ゝ書ありゝ解いるゝとゝいすゝと
辟粗人ありゝこたちしふ乃後わゝ家の家すひめ
わけりとふゝの菊水ゝみゝとせて茶を芋しみる
ゝ乃いふいさすし清和系とふ茶を行事をきあし
ふいゝの石ゝすしありてをうしまものませたれいゝを
黄史世史しゝ茶を黄英せり主客のゝひわゝふ
しいうれゝとゝもゝゝふうちわりゝ乃ゝのたゝ生つき
茶せる名所圖會のゝはゝまあるゝとゝみくゝこの中
ゝいわのれゝ家のゝこゝありゝゝゝわくゝゝこゝり戌の別

すくるかとみも湯あみんとて戸をのこしたる東面のこと
かたてにおきし火鉢みなとこ入よりやりれいはいそこと
すふいちかい火心とふとそこすうちあるいとりきて
ものあるとりよりは養老といへと村名はいしらいと石とのこと家数
もわかきとなりの名法流流つ六里名古屋へ十里
関東へ三里半岐阜へ七里大垣へ三里とふわきゆん
とわるふとろこのたりよりは流流よりゆくらたるよ
きしはそのしつりすこの所いいつれの街なりすそ
えこまたれいはりこれい法度おかわくい関
東ようこ流をんそおいすとき

六日朝こおきいつもはあいそもれこ宇いまとそ
書れ毎えすこきのみゆもはさるこ様のま
へこいとえ家まあ歟の書とおりきあるとあこまは
船の書とふこの歟いつもあこりそいみること
きをまちこそのるよきりこ山里乃さまあは
ましてういうらやすこあこ又ふふ結法切せ望
御はいまのひまあもんのとこいいるの所ようこいう
うのこのるのはまてあるちこらねこみこらこいこよく
近江の湖みこ水生絵水面おこみゆこいりとこく
するかこ宗もやここまゆんい福といんこのまふすお

赤松林をすきすてゝゆきて三郎松とふまつのあるあり
より乃とりて鞠巣村とふすきゝ坂のまり
のわかまつわき時い業谷より三人
村をわけん坂のうゝ多二軒あるとちより乃とたる
わんてゝ尾村とふまつるこふ神の社のあふきさゝあ
あるりまて岩ハのうりかくれいと大金ようかぬ
つる村とふすき松わらゝあるい渡るかゝゝ洞わらゝ
みつやとふをたまん大場猫地(オホバ ネコヂ)かとふすき八尾り
いる長光より三里ゝこゝい市絹行ゝ殺の塚ありて
すきとろゝこゝるゝあるとふひる田和尾松本切畑(マツモトキリハタ)一名

なとふをすき松江村(アキエ)とふるいれい松わらゝ　あり
岐阜より舞谷ようゝ川ゆまて川中いとゝろゝ松のゆゝ
ゝ面わそゝ

るさゝの子やいたゝい松あみ山松江のわらゝ
りこの松のりわくるれい一里の乃いたふゝいてゝ
渡いゝとあ尾のうつり大数あんつゝ松とふ数いと
まわらゝこの川い英尾の出張まそゝもりのいすふち尾
ゝ絵(サウブ)英村とふとすきその村まゝきて江(エニ)尾とふ村
あり

こう海ゝ川のえゝ。。。。。あゝまのむらゝそあゝ一里

のみち柴刈村とふより堀のあるこそ波あり
谷ちかくゆくあきとわきい清瀧ゆんのかあきい
堀のうへをやゆきく弓尾村とふ弓尾波とふ
をわらるれきゝ川心ちとりてたゝ　ゆゑい清瀧すて世里
ゆきー　ます天王いとすると石たらき市祐ゆとわきいまき
えまくて更ゝ　ゆくまくてなるなり米のあるなとへ
市中社をゝみまるこのわるあるの大祐ゆくたるまいて
しいわるあり
むすびあるあつまの宮も粉わるー八重九神
とあるむこの市社ハ大社ゆる式ふいそ尺社

たまいぬそいとふきこゝあるきそこのさとの宮
更あとふ人ハわる平曲をなしい師をゆきとあ更ゝ
ゆる二日のり杉坂ゆきたりてこの息ゆる網根とふ人
茶を煎てそかせりわきいことふしのいふるて
をゝふんをゝくつい迷惑
北すもあをきすもをりるあ時雨雲のたくひ
ゆるむこの家ていてすゝ　ゆゑい堤ありゝゆる長橋ゆ
かとたちてきゝ川ハ入江のゝくるあるていとゝろ　こゝハ石
たりき六月の神　柴あ所心長こ橋ゆい神殿神事
腐物とゝりなゝも六月ゆあとあ子所心長瀧鳥殿

ふさやゝ多く茅ぶき所あり一つの船ハそれ神事まちゆ
ゑ船じとふ所の名ハのほりもゝ橋のあり所かりとそ
ゝくて山里の内川やゝ行くゝとふまゝ家まやゝぬるまい
あるとき城田のうしとふをとゝふまゝのもてあ一いと
まあるゝ心こハち画をこのむ此癖ある人まゝつまゝ又わかい
癖あれハ名をとゝふまゝ根ゝ寄ゝ寄れハ初一面も四識
のこゝゝ宝情をわすれ見まゝり
七日あゝるまゝ名ゝ所わきいつまハ宝ゝれりまゝ西ゝりゑん
所の名石ゝしゝりなり船ゝまゝへて言つるまゝこゝ
ふ吟いつる鶏の船もゝ行ゝまゝ船のまゝ根ゝ根る

諏訪小津（スハヤツゼ ショウヅ）古瀬勝幡（ショウバ）ふとゝふをすきゝの九ゝ宅千須
天王道ゝ名ゝ多ゝ名ゝ名ゝ名ゝみゝゝゝこハゝと津路の神のま
ゝ所ゝゝふゝゝゆきゝて名の九ゝ蜂須賀大師ゝふゝ
ゝゆこハ蜂須賀小六ゝいひ一人のゝみ一所ゝゝ所ゝ
のゝゝふ石所ゝ巻山小田富塚（キツトミヅカ）彩（シン）ゝ名ゝふゝとゝまゝ
墓関寺（ジモリジ）ゝいゝこゝふゝ関ゝとゝふ寺あり山門あるゝ
八重剛力士の像ものゝ所ゝゝ堂ハ観世音ほゝちゝゝ
格段著名ゝ堂（堂）のゝゝ名ゝ珠掛ゝ名ゝ所ゝゝ
風凰山ゝふ額ゝれゝすゝゝいゝものゝゝる寺ゝ
人ゝあゝ文所ゝ仏ゝふゝ一ゝぬ人ゝまゝゝいゝゝなゝふゝゝ境。

いらつかとふ古風しるき寺頼朝の建立なるべし
門の棟れふい桃亦の石ありとふあるのかたり伝
まて古風ふきさらされたるふうなりなりて門ふいら
もしるもたるふうへさまなり業田変してとうちうめ
うち世のなかしいかのまへあり
彼力（カノチカラヲ）
彼力あるしものとうれいらうふうもの乃
ふりまたり古ーゆきて的波中社の名ありたて思ふ立
まうこ一丁あまりゆきて名ありそうたるよし
ふうとうとうたる寺の中に御社わたーまする御社
のあるとうい菩提村とふ村の内ありとふあさの名る

くうとうみゆふの寺の中より出むーりー御社乃
さうとうらふきのかるありてこの中より桶と鏡あり
こも俗さやふの中さかうのあるふこうさのもやうー
昔いこのかの中さ多相ありーつ八ふ別南乃寺まて
南相つうり つうーー二度あつさの御社ーたてまつり
一棟とまふい第ふる俗しそこい古風ふるこ和まふ
この請ふあるー十割拝まみくー八ふ和ぬ請ふれ八この後
ふる附金のこつうりいてむとふるつふあつうーふれ
いさ俗人のふうふ俗衣たし知国院の人筆ー古巻跡
の法ふうふいとーきまのやいとーー又ふ八ーゆきて乃の

たしまあるきしちあるハ城江親青といひ〳〵ちきてう
尾張の殿すこふうつさんたるとふかれ〳〵巻ふ
まいれい石を爲の入口ふりこハ清涼のさとを清涼の
さとの巡分なり琵琶ふとをめつき〳〵町を
すくるといとふきハ〳〵しくて常住所とふよりう〳〵
を清爲ふるうとふあ〳〵家ふやうぬ清涼ハ宮と
ふりくてこの所ふる福井撥校めとふらふこハわ平曲
をまふふるつき〳〵灌頂巻小秘事ふのゆる〳〵をうけ
なるまゝの師心をうく〳〵生宿〳〵常寛家とかさる
茶いされ〳〵後一曲をこの〳〵ハ維盛入水をきゝせ

らいと殊揚をて感ふたへより琵琶ハすふいち殿す
白領の石器をて酒をけ女とふこハ撥角すりを
あり〳〵うつて宮ふを乞ふきたり樂琵琶と平家
琵琶ハ月あるふきうそのうちめかりとこハわさて月とふ
きて付女とふ石つくる仏ちゝ書ものもつ平家
琵琶ふ月ふきハけ一面ふ〳〵ふふ石たらく〳〵ねくゆう
りしふこひまふれ耳ふふてこて好事のうちひ
ふかしとふくすふら女いさう〳〵いてたるハむ女の石
ふ〳〵あのみハ子ふの黄さへおいされ〳〵〳〵ふく
あるもなり

ひふきの軒よりのぞきてうすみまさるむら
さめの秋

詩題詩をかしもすきてこふ文数きくこゝもち
きりかすみ一うて平曲の名文ありて行えんとうるうら
ゝるものゝうちにはいる（きうゝあれと玄昉一句のしは
まいせること夕いふ一くねい所一ふそのゆゑとゝの
うゝむるよ撥拔わせもやくゝあうさひあり〳〵人〳〵も
なつねゝうゝまい解一うたゝうゝ〳〵ら文灌頂巻り
建禮門院の行ゝをゝ一まるとゝうよるい教とあき
ゝ一ゝ一ゝふ河人ゝのさるゝゝる吟ゝ〳〵ゝゝらふ河ゝ

ふゝゝゝいてゝれゝ一ふこい長恨歌のゝゝる夜尊夜ゝ
あゝゝわゝ（ゝふんゝゝゝゝゝゝこいねゝゝる徒をえつゝてゝつこ
ひゝゝきゝてゝらゝゝて水學爲ゝふゝ梅をなつねゝ〳〵以ゝを
なつねゝ一ゝまゝる一ゝきゝのゝふゝ一ゝゝゝもゝれゝれゝすれゝゝゝい
ゝりのゝのゝいみゝ文宋元百一詩鈔を以ゝゝ（ゝゝこゝ夜明
詩の別載ゝゝゝゝ五朝別載ゝゝて近年翰苑おゝゝんゝゝ
いゝふゝいゝゝゝゝふ不詩ゝゝふゝもゝありゝこゝいゝゝゝゝゝめゝゝゝ一
表ふゝゝゝ他ゝゝゝゝ怪談ゝゝあつめゝるゝゝて怪力乱神
ふ不語ゝふゝ語ゝゝゝゝゝゝ

ふかくうつりてめづらしくふあるねと李義山詩注
一郎をもとゝ先うゝ又徒杭茂岳とふいとの殿人そ
われねてんあひのかまくゝ書のたすりふたりくゝあれふふ
いゝまきかとるふ島遠感しえすくるかとあまくく
うりの川旅すてのものかとはいさゝ故々のことわをいつる
とあるふうつりうりうりの
八日ふあきあなるよ枕邊殘燈ほらくゝして沙のつき
なるは寅の刻まもやはふしあのるとゝえていとゝかりう
なりされと言のゝゝのいいうあんとおそりゝおきいて
板戸わあんとれはゝふ一點の島おくゝ早光いときらく

しきいとゝうれゝ又ねえんもあさらこゝく宿のまわゝゝく
納けさゝゝとうくするかとほのゝゝのうまなりて宿りを
いの川はうれの町とすきゝ清水ロとふをいつ出発する
八王子の市社かとゝまする志賀村とふやまきゝ市の獄見物
山かといとたらくみゆ去夕もはちうきあさりの下街道と
いふとゝかりうゝ市嶽みゝわもうえおはいうきるふゝ
ゝゝやゝ雪ゝちくゝゝゝゝ
ある人まあふゝちゝてもふふちゝもみゝその雪の
ちうたへ在さうき入まも如ようやきていとあゝ
より入りゝまたりきゝゝまおわゆりハ月十四日の風

城内のホとあまたたふさくあいはあれるようすてしとふ
かの大風いこのあるりまてしいとあるりーーようすて
あるりの大木そのたふもたる所方のする柱あまり
とふ安井川とふとちたりあちまり川とふをもわるこの川は
まふ琵琶湖そちたりしー川のまるて下御乃ようくは
かち川とふこの川のむくしいはすふいちあちまれまて村の
入口のうる米の名所たりて神社ますまりこの
あちまとふ文字いは味鏡とそんは式ようたる味鏡神
社春日部郡いこの神社なるーー味鏡をあちまとふもむます
なるてこい坂より鏡の字をあやまりたるなり鏡いまりの訓あれは

うりてまとまるなるなるーーかもは心里の在の字ようさくるは
河内国枚方を枚方とうきろわ国る島の神社のまます
神通寺村とぞんとうまとしもむたるのまて柱あるまるーー
やゝゆきてのたよ陵あきたる山あるいは春日山とうひく
春日社おたすいーとまさく古代の墓とんゆこのあちま
村いいとあるーーやりくまれくたのさの山あるいり駒り
嶽の雲いとうくみあたりーーみさるのする富士ー
くゝ宝永山のこときとちもみくさーー尾張富士と
ふ山のあるいてみゆる所もあるいはすーーきたり岐阜の名元
山も又名をあたりかの山村とふもたのたよる名たてる

みて森もふるしこの武一つなる外山神社春日部郡
なるべし小牧宿より三里この宿のうち
小松山あり（小松の陵）すべて仙なる山なり高山し
神祖の御陣ありしる人のすくしる所なり穴さら
いんもあるべしこの宿そものふとふ宿とそふるまい
かの尾張富士いとちらくたのさとみゆ田中村とふ村乃
高ひくしてたのうふ水ふきみゆもあり小松山觀音乃
高きるんみもあり男澤村とふいわとふ
ちや伊の別ふんとふ水桶の中とうひみてひるふい
いまとやしとふいとふしてそ人たちの中をみきて

綿の実をたきてうねのうてそきてる火とつんわ
きてそのゆくるかんふ伊の別くさあくしとふ畧
の漏刻むたくみとふ二ふ字もいとあくうふ
借のをのこ乃あくそこうふ源あんいなもゆきさ
くをみきいとりよゆくらうふしてつやくそ
あふいいふんをるくふはさらあきあひそし
やゆきて二の宮すゆくをと樂田村（ガリデン）ふをすくこ小牧
よ神社の門陳ありし時豊臣家の陣所のちなりて
掛郡（ゆつべ）村とふいれい退分あり往来をすきまく
小上街乃そ川乃ちる中仙道ないる街乃し

つきいたゝいしゆんの石あれいたるよりやうやくして杉の並木よ
いつきいたゝいの城址大宮(守)みてあたり羽黒(ハグラ)橋九かとふ村
をすきたゝ山さいそれいふ小まきより三里しゝまりつゝの尾と
ふ山寺さいゆんとそれいハ街道ずり右さいり針綱神社の
みまへをすゝんいとりあ(ゝ)まつつ燈籠さいハ針綱神社
と名りてまたゝ社名りあ宿の氏神ますゝてとり
美濃名り汁あれをとふ俗さいハ山さまとゝこハ
武さみて名る針綱神社(冊羽名り)ゝ宿ハ成瀬(ゝ)
殿の陣屋ありゝ城ハ山ゝしこハ尾張殿の御台場
まて成瀬殿のあつりゝ宿といふれてゝ名りゆえハ

池ありゝ陵めきたるあをかふと塚とふこふと
ちの似名りいゝるあり(ゝ)ゝ墓とみゆやゝゆきて
名りたのゝあるき名者ある山ハむゝ針綱神社
のまゝゝ行ゝ八つのゝとつゝハ後ようつゝまれる
ありゝて九山新田村とふと弘法大師堂ありゝますゝて
ゆきて観音名りゝ名りたるたのたてるあゝりゝ坂路ゝゝる
こゝハ月ゝ宮の西風ゝなれゝ名れの本ゝ名りゝまゝゝる
わゝく横をゝりゝをみゝ名坂路ゝのゝりゝ名りてゝの
観音堂さいゝるこの堂ゝ観世音ゝ観ゝゝ(嵩麓)とふゝ
たの名りみゆゝてゝきハ向ゝてゝゝ堂とふゝふ

廻廊のそばにあるこの堂は東向きにうつのそふかひこ堂
とふありてこはいうくるしの人のねんする佛しとふ山權
現の神社とふも石階のうへ（よりしてその石階のもとふ
朝倉貞柳翁塚とふりたる石のたてるはいかのゆゑよりあり
てあとそのよはたてたるなんとふりさて說教堂の殆のさ
はらきとそのよのあれはみやはいとゝ先面ふは右手竜
の城の天守ふみすはるはるまりて殆ますて小牧山のあきたん
やしなり尾張富士はもとみゝ犬山の城は殆のうふちうく
伊吹山はもとゝすてあまりみそらしわかくく
茅ヶ崎つくまんゑ中ほもきはいひらぬは本宮川

のなりき山をあとゝ眼下はさきなるあい川のきしふ
あやしき岩山もものそばんふんゝ天ゆもとまりこの山は
ずは八ーまくのかる坂路のちきふこそふくみちゝ
うちんゝ寺の名は寂光寺とゝ繼鹿尾山
ふとそみそはやちこふる佛はて遠近ゝまうつる
八かゝく名所あるりすはは掛茶みんそあゆみをを
ふ八かゝきそそはさるこそふくゝ一筒の奇境たゝ
おかそあたりはあらゝ

のかりそちあぬつりのをいひつきて八ものもつむ山
のみはたゝ名所ゝ堂のうつの石階をそれは俗世

あり五六丁こなたにて谷川をわたれば播山よりふ
ゐ出るこの川のほとりよりつゞきてやま
のかたちなる所をぶ山とゝなすうつくしき岩山もたゝん
又機屋ちきてあやふき所あり此所あまりなるゆゑ栗栖(リリス)
村とふなるすさまじ所なり柘榴(ザクロ)ことに播州殿と
いひてむかしの名所なるゆゑなり川
の川とゝなれいもくひ岩流るゝこの川ハ深かりそ
夜ゐの中ゆ川のわたりなんのさかをたゝさやわ
らんの村とつきて元綱(トリツナ)村とふもありこの播山まで
六里より二里とつゝのわたりとのわりとハ在家なり

親ゐまて大山より一里とゝ八ちゝくりこゝまてハ
一里とゝ又この村すハ尾張殿の幡竹いつる小枝き
こハ村の名をもちこのこゝろゐけ村すきゝ川すゝく
ほとりゆきて山川の名をわたりのわの坂と設る坂とふ
この山のまゝもあやしき石山ゝ二丁もりのわりとれハ
石のさき川のうつくしいてゝ高あやふきところあれやさき
のようきゝとゝそのあやふさもやまんゝとゝ石のとうすあく
みてんちつゝまをみわうせい本尊川のふちをみわた
ていひろくゝりてゝ石も淵のゝくゝすふくゝうつまきかゝる
さま娟妍(けん)とて川中まで奇巖奇石あわくみゐ

あり又下のうさる介ら高きたる山ゆゑのみゆるを
又あさりの山とみるそふ山のうきり岩山とそこの岩の間す
ゆるあやうくおいてそこの岩山の下のうち洞の中より視
世界かさちをあらむせりとみゆるうつのさま奇絶妙絶と
いたしもおろうそ日かゆるすたる庵主のまめきたりふかい
の奇境御方なるしあるうちはなるうまあるうこそおもそるハ
うしをうそうロえれかるもりの山のうつる八日の月
のみたるふとあるうつるつる画ようせたんうこそ
おもううみぬまうこのかうるひとあるようふ水そ
川の水

もうう此ふさらうう山よりふとわくさんとおふ山
なるなるる
猪山をうちりゆんとさうそうみわるうう
本宮川の水
これも又ふうき新宮の郡那須の滝のふさくきそ乃
山川
さうたる月のみふねの新こえそれをつうある
きそ此山川そすうを此川視世界かさちのみ
えなり御堂ハ高のうそくるつうりそあうつる不動尊
まううてその堂を高つうりのこうこふをうきまふき

岩窟を法華堂とたてり御門あり宮殿なりて金の湯
をわりて茶湯士を置人は播山観音又岩屋観音と
もまうしまして霊獣いちまつ御仏しとりさてこ
れは御所よりまいりはてきたるまんそのゆゑい
ふ所のさま名所名人まうでみてやくすいりふ
ちうろ法田君御弱の軍記とみは観音坂は実に奇策
とふしうあすみせもなーとあるよりきんふうき
てみゆうまきりしきわき者人は似ふくかは先き
なりをろふの癖ある好事の病あはいしきれとこは
ありたくてきこきれはあつひておきあるりれいう

いたんとおもひ出なるこゝろ弟御ゆくめぐりついてよそ
なりをまはりなりはいみしうきこしあるりふみかりする
あるるこゝろいわのーすりは八つきはきれるやうよおも
なるれはこゝろむ人はうるはしうてきなるみすきあり
じまこゝろ本尊鴨出一の奇境をふーけ山のさま
むくひのきーまりみてふたすこゝろる岩山をみ
ふゆうよのありていこゝろの奇策そうし鹿鹿す
いこゝろおくまれりさても観世音わきちはふく奇境を
ふゆなまーるの御仏はーよいふるこゝなんなかこみ
御わたみなせなまーるこゝろは雑地おわくまま薬師

かさちはさいたるところ
ところ〳〵に佛のうへまもりたてまつれる観音とぞ世人
風流まさりの法花とぞいふ俗なるあり 業 第四とぞ世人風
まさりの佛すらかかる好をまぬるまぬあるとぞいふ
さまものしのあさめて涙ふるきことのかぎり観世音
かさちの風流なるは西国三十三所の巡礼なる所
おわきてもたるべきかりさて観世音かさちのみまを
たりまつるは門をたてたるあるもめらしやさ
ゆきてうちふるとぞいふをのれをのれをのれをのれをのれをのれ月
光やあきらかなるあれるをりからしれめきたるきかこ

りてあるはうれあるはあるいはまうもあるはまうもあるみゆ
　　　

かゝ市中の愛をまふれてうゝやまゝ[illegible]
やうゝて浴室いたをみゝてたるを土ふすせゝとそこよふ
たゝも遊ゝまたるんたるいおもいもあつゝゝ久んいたゝゝ
ゑ人ゆゑゝゝゝ跳ふ盃もち来たりて麻酒あれと新酒
あれいまうとていたゝたりわき酒をふくむこと歐湯ゆら
燈をすゝみゝまきりたれとんたるのあさゝぬあつ
らゝきよんうゝ見て一盃をゝさむあ味ゑあし
乃日ふも天ゝまゝふゝゝやうをいい宿とあまゝ
やうゝ卅ゝゝ海とい右膳のあとりひゝいものゝゝ三ま
ほうもゝゝふゝまゝて郎の合るもゝ一るあゝ一ゝきいい

さむゝ六月茶屋といふいたりゝ先茶をすゝ杯の器
つゝふゝたりせゝかこゝくをあこゝもゝさむさをゝのくゝ
ゝいあゝあるむゝゝゝ四たゝ入ゝ岐阜のうたふこゝろ志あ
たゝ行ゝの郎のうちゝゝ

もゝちゝゝさゝん杖いうつりきて新ゝきむゝ加、
みのゝふたのうたりゝをふゝみゝい蕎麦人形のたふゝたる
ありゝゝあゝゝ洞伏の法ふゝおゝふのたゝむゝゝゝふ
ゝて人よゝいあゝのあゝゝい蝗をおゝ陸ゝゝゝこ乃
人形をちゆゝしゝふ所ゝゝゝゝゝりのゝいゝるゝゝあゝ
ゝゝいわゆ佐良木村とふ村の名ゝとたのゝゝ凡

又たのうふ陵ゆきたる小山あるいをの塚とふそこのかうも
ひのくさふる古代の墓とおもはれ岩屋もこれらきたるべし
一色村とふをすぎ北一色村とふよりこれ歟是稚児
きてゐる居たりうくて改阜よりこれ稲沼より
入りすてまつる端竜寺とふるあり下馬れきて
ときすじこのもい齋前妙椿らそたる寺じそこ乃
妙椿とふる乃下世ゆる常縁ゆ歌をまぜて城をうせ
風流の武士おもいその人のたてたるしるもへいあやーくさつ
うーくおかゆ町よいきいとまきたーくよきとそうし
茶屋ゆ入てあかとふこ先国幡神社ゆまうつゆ社す

二丁ばかりおくゆ神社いわたーまそのゆ花おゆの並木
あり枫いふもさらじさそもいとゆーつくもみちせり御社
いやそ山のすぼ抜ゆ小たりくうつの山を国幡山とい
金花山もわとちーそこの社地乃京を乃の清ゆ似たり
と貝京の翁らいひーいふゆさるとふくゆ赤立ものふくちん
きるさまいとふふるうう（青羽の滝めきたる滝さへ中社
のうくふゆおちて音京しる階をありくをうみゆるそ
ぬさーつもいかとそうくーいふそ山これそすきふあん
弘神社ゆ神社ハ續日本紀ゆ美濃国伊奈波神と
みて又三代実録ゆみたれいきはそそゆる神社ゆ古今

集まる立つまじらふうさのある山ふたなるこもとすり
ふれと石のわかれきまふふて

なるべくとまりもきていふと山すつん人をわふ
たひの邦さて岐阜の地いもつこの国の岐山まるすうく
かつてしふふうへ習ふこなて金花山のたすまいかあき
なりかうハ川その山のふもとかきい山水全備の住所し
石あるものふふちも左城の古蹟すてうるみやひなる地か
るこふふわくりまへくくくる人い山ちの雅京を受
するふあ〜文〜て五六月のう物銅のあるをみんとくし
そもそもあさまを巻みてあもをもるる〜風流のなまけも

世ハゆさるくさもそなんをこれ皆あそひ船をうう〜酒なや
用意〜そそ〜ふみううひの船をふい〜船のうちまて酒
〜くらふ先りあこそねくきたれハもそふふくみ
かもふそうやされハ友のろそのうう〜人ともやくあり〜
ふふいさ〜いきり〜ゥ地さい雅京をみ〜ふまなれり物
銅のさまみまる〜きをりハ伊勢の西まるものとやこの
そそうの物ひいあそひの酒及すくそのいくさふふさ俗ゐ
ふかまる〜もかう〜ふうぬそそうくて川波(カワガ)ろうさ
あ世んそそをくやゆきて淀よのあれいこも別長
柄川(良)ひ焼のうへすみきハ金華山ハこそ〜寺京

反川記異本ニハカヽレヘトアリ流布ノ本ニハカヽレヘトユ今假称オタヽシトスレハ異本ニシタカフヘシ

なりうて鏡宿（カヾシマ）村とふよいつまい御乃じ一条禅閤の志
らくゝまり給ひし所のことなり一精進宿
ゆくゝ吹皐（ふき）のかたをかれとそいみち
ゆかれいこの宮居をへだてしあかい宿村ゝ波ありこいふ
ゝ川すてむひかゝ波川（がわ）波宿し吹皐ゝこまて
二里とふ生（なま）ゝ村ばゝ村かとをすきいとぬき川とふ川乃
板ゝをわたるこい信島樂をたゝめ古歌よおわくみなる
伊賀（都）貫川ゝを都をゝみあやまりていとぬき川とい
たゝくなるゝんかをつゝみ声をたゝくるいたゝいと
おほし

むゝ田乃いつぬき川いすむ田路のちゝの後まて信
をなゝ川ゝわせすゝ宮のゝきゝゝありんこの人のゝ橋
なゝ川とふ人のふゝ宮ゝすゝて宮川の岸よみゝゝこゝありゝ
ほゝろいわれそたゝをふゝもゝ宮川をわたるつけてふ
とおかいいつきふゝやゝ古の昔心ゝりゝるゆゝゝあれい
ゝやゝゝゝのみきゝ人るあゝらんゝゝゝていさゝふ
つゝきゝもあり川のむゝいか田（センデン）村とふ川波より一里
六丁ゝて美江（メエジ）寺宿ゝいゝ宿をゝゝれゝゝ乃たゝあゝ
ゝ石観音ありゝ奉遷井南美寺観音とゝりたり
八月村とふをすゝ

たきすみてこころの月をすまし　ゑむもゝ　ゆくき
ぼうもある郡呂人村をすぎて呂人川をわたるやなる
川をいとふ　ゝみ川は昔ゝいせ川とゆ　川すゝ
一條院御國の韓非子の故事　まよへゝ御うさみ皆
（此古墳じ）の御教すいとゝらへゝるゝ　ゝ
あ中まわたりゝゝ　杭瀬川兎をまれしわろ
かやゝ　むゝのきゝまいたりて　悅よのわせいわ宮跡と
倍道のゝ　ゝ　のゝたちて大垣の城もあつみのうす
ゝるゝみゆやゝゆきて大垣まわるゝゝありゝゝ大垣まゝ
一里じゝふゝあたりをゆくわと甲の別すくるわとも

なりぬれいふゝゝ入日のみなるあらせゝんゝゝ
せらふゝ日みゝゝきゝゝの旅のゝせなるふ当もやくわゝ
なりゝゝわゝそりいゝゝゝゝわりふゝゆゝゝのみ
いゝりるゝもんゝるゝみつや中仏寺あるゝふ村ゝをすき
赤坂宿すいたる美江寺すゝ二里八丁ゝふ宿の入口のたのさ
ゝ金生山屋空龍堂ゝゝ山のうゝゝゝたゝくみゆるゝゝの山い
わりゝわきゝいつゝ山しゝゝゝのゝゝつゝりたる文法硯印桜
おゝゝの宿ゝゝうゝあれいもゝもゝるゝゝのうゝゝきゝやす
ゝるゝたれゝい苔わゝゝゝいあゝゝもかいまゝゝゝくゝゝの宿乃
大まやなふゝゝゝふゝの家ゝやゝゝのゝゝ名い演曲ゝ

人なる熊坂長範が古墳なりとこれも又信濃所のやう
ちらしされたる事記ふるまいその名みなしふるまし所ふい
ありけるよしなりすくるわしあのわとはまてもなるし
十日ふつくめまあれい廚のうもれんの用意すとみなく
火をもてあそしあるゆもしあのわとるんすまをおき
いてりぬるとちいなくいうまそのうれておきらいわら
うりまきたちいつる時のんいとふせんきて一二丁もきて
れい又ふりまわりまなるいをやきなふいるん宿の中
たのうる谷汲まゆくたのんのしるたてりこをり五重と
ふ宿をつきまは甲塚とふ塚あり宣仮村とふとすまき墓

の墓しこいたりき在所まそむらい傀儡ありし
こ歌まみゆれい宿放人を人ふいあきいたる小村しなの
うふ名彫るとふまありくこ所の茶屋まありくいも
かくりあるる小庵あるりあるうのうさふるのお婦たちてはい
源義朝たい義平たい朝長の墓しとふ墓たまは佛像
をありたるさまふとうとふかくそのうつのものみの朝もの
墓い別まこの宿のうあのうまありとふ義朝い尾張のも
内海まく長田のたあまたいせんなるこあきられいこま
墓乃あるこふ〻〻〻〻世へたりく坂まへ人のつくり
なるものもわもそれねいそのうちの人のたてるたいなるそ

なりのみれのもとに来ゐていてきて

さうさまるひきーら矢ハ未まで行たちまち来まる

うりけるうゑ卵こゑのさまる照手の姫枯又ハ清水ふとふもあり

てゐのたるみゆるゐ枯ハうせたりこの照手姫とふ人のこと

たーうちるあるみあたーぬを古墳ハ和模忌茂海寺まも

ありくいふーきこと(しやゆきてこのこの忌分寺まゆく

ゐもあり青野村とふとすきまゆ糸とふもあり

の八丁ゑりもれハ熊坂長範墓又ハ和尺の枯とふも

ありとこ(とこハさきまいつること(湾曲ゆみなるもりあく

れも性なるあるみあるゐたるとさきもうあるーきひとふ

らねハこ(ハその枯ハやくれなるをうゑつきなるゐ文も

れなるをゑちきころうゑつまて人ハ孫ゑしとふ孫

をきりなるみてこもうゑつきなるゐこいいるく

ここや孫枯のわさこいいなるかくまて人ゑなるこ

萩 雄のたくハすていそゆ梁上の君子なるう

石をぬすむ人ハなるーゑ也落汐のこあや枯

乃ゑもあく

ふうーみそりのもやれれいてーのころハ枯乃

一本なりりやゆきて大酒ゆるるゐとゆきあ所あり

てそふハりあの川をわ川と俗ハいとまこと神代巻

まえて宿屋見川をすぎ喪山をあとにし
ふたりやすらてたつねしらてきらるもぬわもしきなるし
ふぜふしられまての所をて里人よりしらていつきもたる史
いしいふいとやすらかくおもふをりあとり近清殿の御犬
礼すくしのはとたり給のしらちきるもたるをすきり給ふて
そのたあたの御度すをて蓑笠の里人三十人あまりいしい
乗しふき葬しとたつぬるもたる史しいふ
やすらかくてあ門のをりを宿の入口なるをりみもおも
きまるる里人十人をりあまきは行すすまるたつねみも
ふその中まをうしく一人たりあてていさやしるしまるら

まんとそえるたちつ又をしたをせしてをりもとの
たをりうせてさて一丁あまり北のををゆいさんりの
山しいふをみもいまるる林の中より山のうちすまて
みゆきしたるかそふみわんうち山のうちつ人の者異山
ふいとく似てたうきもおるしたとあんふいえいさ天すり後
たるしるるしたるせしなのろふやしけ山喪山とふた
ちきるあるねと葬送山をあみいいおすしを八ふまて
そうさく山とのみ里人いいたる人のおりしく武儀郡
まも喪山とふ山あもとそふ川おもいこうまとあ
ロしうるふいもるたちてはるふあるさるしそも

この山いの遥志貴高日子根神ゝ天若沈子の喪をし
ふゝ[illegible]時死人ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
たまへゝの喪屋のありし山なること八きさいとんもあり
きとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

小嶋行幸ありしかすてこの氏ある童水ふるる仕ま
まつこしらの小嶋のすゑ〳〵はそみきいとあさまきまて
つくらん世のあ学いする人〳〵ふるく南北の御事を
まうすいたる帝の御こゝろをのみ申て北帝の御こと
はをまぬいこれをけすくうこゝろ皇統の御事をわたく
しんをて議論既弄するあるあるふるまいしそもわと
まうすはをてあき嫁よはたる武家と武家とを威勢あるい
まて帝の御ふすはふりの御くはこそかりしるう
よわるいまるれいさる礼世するをめらき拾る帝乃
御ふこそいさまし後漢光のこゝ姓氏たりる人々ふ

をうはい代のゐをくへかをするたくい御するもう〳〵りり
その奥をふと万世一統の皇国の風よおすゝあやすりて
云蓋の論するこゝわきいいくまわもいあ〳〵こゝ南北の御事を
論ーまゝ史さ皇統をのみたふとみをるのんかせを
ふーもこゝよ為りて懐古の情をまりなり
かりこの昔わも〳〵いいまきゝまるみさなるねのあさ
もしこりゝ宿の中ゝりたよへて金蓮(コンレンジ)るまいんとすに丁
そりもゆき世数のゆる門あり戸さーもくたる植よやね
をりるそもの守りたりそうまり二丁そりもゆんい下馬札ち
て文門あるゆ外をみるしかーを堂はわゝふきるそものりたりを

は嘉吉の昔吳利村氏宣の御子春日丸安日丸とまうせ
しかくうれなくるの古記にすがいちか堂す御像
ゆるすきんは後百明いとして宮慍よもあるの僧
嵐光の衣ふしゆゑくもまうつか堂のうちる
とおいたのとふる一同のたよ安宣したる御厨子の龍いう
きあ光持をかりくちりくみまれは長方雅陽持なる木
像まていとくろふいりそ女像の中よ安宣世る位牌
も粽そのみのもとえくまたく後人のつとれるあとみ
文門をいれは藪のさいはる二基のお輪ある小堂の為
ゆ女公達の墓しとふかいはやみするもかはあそつり

なる武器をまれはいとちまちもりとやさうはさする
ゆゑふ一ある公達のみさまりとはいとたふくねゆまこの
墓は御所野とふまありしはいつはそもらねまりくまてそこ
はこの金達る村一村の墓所よそのたる中よその墓はあき
はふの女ていとふせうんときくよくはいとそれく
えゆうよそこの女公達をこの寺よてうちまりはさも
礼世のふりはいはふはいはいとはきとふりくりや
おもはいてくまくし

おとうと独ふの嵐吹あまて弟ふの来の家も
きくふきくて畑左をふくゆき度きとはいたるはすふ

いちの宮まうつるなりしこのいろきなをたづねゆきて下
鳥れいてるうその御社に石のそりはしをわたり橋門を入て
御社まうでに回廊おうくめぐりめぐりわたる大社なる
うつくしきいとめでたしうろの山みのくを山とまうす
して御神木のふむ椿とは御まへまたらくさらえ
ふるきうるおもみの山乃ふむ椿とあるおもしろく
英流山乃ふむ椿八千代まるうう文くちぬ文を
ら御神御まへるふるかわらくみ山もおふれれみ
えて木立のふるくはいかぬかあしふるくれの御社とも
いとわかく塔ふともありすうー山を入く狭塔とふもの

あるをみるこの御像をなりなるあふくうちはい釜のうきも
ものあるう應永五年の銘ある古代のあしもとの御社を
式まも仲山金山彦神社名神大とみたる御社すてあは
の一宮なて俗ふ宮をまうしーなる中の沙事なも
ふあるすーそきたこうるる大社しもあ乃をうへてわそき
乃をちらくゆきて街道すいてなる所をおあ(デヤシキ)おあ(ヤシキ)とふ
御社まうつるを八丁のまはりとい〻ときふ北余丁のま
はりしそやゆくかしいとまむくわゆるを里人まふ
雲井まていさはりかねこみあさりー醒井まていを吹
よちうくきふふとねくきうふあるのかいわうう

ゑくやふきく見ハきらるゝうゝとよまもしきもいとわの
たゝ一ゆきて野上村（ノガミ）よりゝ永こい天武帝の大友皇子と
沖合戦ゝ一時引ゝあり一旧蹟ゝ天武巻ゝ
野上ゝ引ゝとあるハこのゝゝのゝふゝふるきゝゝうなきめ
ゝまるハかゝとまりゝ又昔ハこゝ泊宿ゝゝのゝつなゝゝ
ありしゝて歌よもみゆ

まねきもし野上の落ゝて茅乃なゝみつゆも
のゝらゝゝ永まる遊女ゝとゝふ女ゝ昔すみゝゝ鶏籠山（ケイロウサン）
ゝふ山ゝゝ里人ゝゝゆゝやゝゆきて桃ゝゝ野ゝゝふゝ
の花ゝ有ゝあゝゝハすゝ関ゝ沖陣の跡乃古戦場

ゝくゝゝこゝ行ゝゝの城跡ゝれゝの跡所ゝゝ里人ハ
をゝゆきゝくハゝくゝゝゝゝゝゝふゝあゝぬハゝき
ゝゝゝ中ゝ筑前中納言殿の城ゝゝふハ一きはめゝゝ
山ゝて要害の地ゝみゆきハゝみ山ゝゝうらゝりせゝ
ゝて上方の敵軍ゝゝゝゝゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝ

ゝ月をゝくゝゝゝ関ゝ原風ゝゝゝゝゝ
みゝれゝ

をゝまれゝゝ沖代ゝゝあゝて関ゝゝゝ昔をゝらぬ人も
うゝゝゝ昔和蹟（サク）原ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

らゝなきいはけそらいすかふいち上古と近昔とをさいの
古戦場すてありるらのかぜ風の御たらいもしの下ふさ
けよわうきんとせーよ後又茅長の中よいまる天下
わんめの軍のありしい実よ一斉とふつきそそうし
天武の帝の御たらいはけ所すり郎のそふ逝せまりゝ
勢田の橋を大友皇子の御方すりあれれとついよ
敗軍よありしこふしわもいいさるそのちも宮海田
のもしをちしためしわかるよいつきも橋をさちし
さい敗軍よふきるも又一斉とふ一一斉ずす一里ずふ
て関京宿しあるもいのわきみちの古記ちん

おいい不破関すもちろ条い関京といるもの形る一
その不破の関もらの戦のなあよたてられとふつ人の
一条猪岡ら茂川記よ志るさせ抜れいいつきその戦場
のあとふあるをうそ人ある人ちせ記文の記のそい
その茂川記よすゝ志る人ちきすー志るさせ抜きふす
て人らのふれらもしてやそそふも
ゝきたきわきみちの京の石はたえゝ関の石そう
ゝまりよりりの宿よ八幡の御社あすーまてそ乃
ほりよわ御石を又さきの日ちの一御石すいつる
石のちまゝありくこい伊勢御石と京宿をいちき

六丁ばかりにふあるくこゝふ不破の関の古蹟あり
俳人おとをのおくなどるい墓所めきて中くるみやしやゐ
やまぶきのもとにくゝめるかみゆかいなる

板ひさゝ一月さへも更あきはてゝ不破の関屋い石
のみのこれり

ある人いなきゝをもきくを不破の関ゐ蕎ひとをを
先名哉

みちのくよりゆきゝゆきぬ関ちかくあわもひのやをを
を先ゝいさゝゆきてたのたゝさくの家とふ小社の
まつまつふ大武の帝乃御霊をいまいまるとふ長川

記ゝ関屋の中よりのぞき初あるゝみたるいこの家の
ゐるゝ　こいやうゝ川の岸ゝてその川ゝ立橋ゝ仮
をわたるこれすなわち関乃長川ゝて信ゝい長小川
関山川ゝいゝり

今まてよのこるゝ長の石も絶更ゝくゝをかうるせ
きの長川ゝ峠村ゝふをすき黒血川ゝふ川をわたる
こゝ太平記ゝ黒地川ゝみたる川ゝく長川ゝこの川乃
同ゝ師泰同師冬ゝ体をとゝしゝを韓信ゝ背
ものゝ流ゝくゝなれゝきはゝの大川ゝあ更ゝ川ゝ時
うゝりてゝくゝ出るあるゝすゝゝゆきてたのゝゝ

當の瀧とふ。ありちいさき瀧おせとゝ。れも。後川記まて
ゝりたい山中村とゝ。村のうちふくゝみもゝまを。盤渓石壁
とゝふゝるゝふるくゝみゆきとゝ。為盤のはゝゝあたりまあゝ。
おもれねいゝふゝゝあ村をすき山ありゝ。八ゝ須峠とゝふ
あゝりふてふゝゝ。風ふきいてゝ。女をたゝり。山のゝ紫
のちりゆくさまいとまのゝ。ゝゝ旅衣の袖うすきそゝり
ゝいもゝゝさむし

ぬさとのみちゝ。ゝゝ。ゝのぬゝやゝれいゝゝゝゝりて
たもゝるをせん八ゝ須まて関ゝより一里ゝ。ゝ。ゝ。ゝ妙高ゝ
ゝふ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ大地とゝゝゝ。ゝ。ゝすき一丁ゝゝり

ものほり一丁ゝゝりゝゝゝ。ゝ。ゝ。

きちのもとなる土橋をわたりすこしゆけば長人寺（ながらでら）村とぞ
村まで里の入口なる美濃国境宿物語とぞ傍示を
ぞたてりほてきみぞのあるうさぎひとしてあるの家い同ぢく
ぞ名ぞ（ありこふるいとなくなりき所なるもちろんもも
叩る所ぞとみなく宋人国南遊ける古驛頼頃不記
春陽蘿雞犬旧比鄰東家總過西家寄便是閑人訪
渐人とふるあるこふぞかもいいてるまわるくこみさ
も人めりしるまのうたるいあるをもり
ちるの庵ものうりをへさてぬふんあふみのうち
こそぞさぞ

こふこ一わまい伊勢人ゆきうるく三重ずりあふこ
ちこそすれ人濃より 桜京まで一里ばかり 桜京まで一里ばかりとい一ものあり人ふの
をうりて伊吹山のさもも高ありとい一ものあり人ふの
ふき山い下世もなりとい一ふいうあむむ高し 永昭寺
とふ美濃宗の寺ありてその庭ぞ水橋のたきあるうある
ぞ一ねくきれとぞのをりねいうぞあつさ村と
ふいうとあつさいとふをうるみ川をあるくく
ぼつうの間まで三ぞいをうる醒井まで桜京より一里
ずるうあるうあるもしるく醒井の泉かれうう一乃
ぬまいれの清社かをぞまして泉の中まい日中武尊物

拭石とゆゑ〳〵しく額をかゝんなる石あり磐石とふも
あり又地蔵堂もあり堂より西ハ三丁ばかりにあり
のみちゝもる霊泉なり日本武尊の伊吹山乃
神をこゝもうんとていてまし給ふ時氷雨にさえて息ませる
む給ふの清水ハ居寝といひて坂をさゝんら
井とこゝもいひ来れる名人のいひつたへとそゝ
なきふかゝねゝ僧掛石なりとふつたへ和尚
るこゝ中花菊ハ名人をこゝろつきられと存者
すきたるの穿説すして古頃ハそらくゝ名ものこ
ものこゝを以仏の化ものふるまふ石を泳しむ

こゝもおもひい侍ふ
皆人をふるとみきハ世の中よりきとれのみさ
先ら井のも
さめら井のすくせいうちゝ笑ものとうきるとそまあ
ものこゝろ抜
わきいつるもの泉の東つひとりゆくさんら
井のもこの水ハ岩の間すやきてあるハみ更れハ里
人ハ養花の菊ものふも採つきたりとふふこゝろひの
ものきまあゝねゝむるまふハあらしゝもいひさかんらこの
花をすきやゝゝ伊吹の雪それてをめて山のすきを

みなとのりみしまいるうまたうくりぬふしも風の
ものきいれふきわろしとふすてああたりをふえ〳〵く
をりふくるぬ（ア）水位人のうふいふきわろしとまま
れたるふとつふやうきくくまつきぬ風ゝり樋に
はとふすりたの弼乃ゝ人（マイバラ）茅原のうをゆく元樋（モトトリヒ）はと
ふをすきて寺村とふをたゝまんちをゆきすしひき
乃ゝいつるいえ番場まゝ茅原ゝうくて解井
ず二里とふゝ茅原ゝいうて柏尾ふりしとふ
ものゝ家ゝやとりぬ水の箱の入口ゝてをめく湖をみゝあ
乃ゝいとめつらしゝうし水箱ゝ新書籠ゝ広むひのさ

まちうくして一里とうをとふ水箱い新箱ゝていふ
きゝしき所ゝ九里ゝ迎しゝ箱ゝ水箱ゝわかく出れ
いゝりそいゝ乃ゝ高ゝ大阪ゝ九里ゝの乃をいうしとゝ
湖ゝ九里ゝのふちをち湖ゝられいうくふなりゝて
ふい乃ゝすゝ高ゝ古跡あゝしゝてゝいわゝくわゝ
しゝとうゝうゝいふうゝ古跡のゝくつゝひなるあゝもみす
くふきゝのふるうゝ（す）ゝくゝ湖乃ゝあゝまゝふきゝを
うゝ俗ゝ一ゝわくしていうふつゝき湖乃ゝすゝあゝ乃ゝ
きゝ水箱ゝ一ゝもきゝうゝ小井ゝ生るゝまゝゝんのゝあれいし
ものゝゆくゝ小関ゝ生ゝ生涯ゝゆきてう（さるゝこゝり

いつるの水路かきとさていふの所の名所古詠みぬるこの
んうくてこのとつまさて来りあるり所いとつり二重もり
のまはりとふつくまの明神のちかきふいとまうてまゐ
なきとあやふくて所のゆくてあり更とふよふ日もく
れぬ明るい出まるゆきていつひてあ一名きいえゆり更この
つくまい文徳実録す筑摩神とみくあるみかるつくまの祭
歌まも尺御社のあるすり湖をのそむ名きいとすと
きふとふまうてまゐ一きをとちを一うの祭ふ六ふとくありて
小見の紙すてなくのなちり所ものをつくりてそをつくを猶祭ふとそ
煙霞日記巻上終